

科目名	日本伝統歌唱法長唄演習		担当教員	杉山 加保里	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	
期待される学修成果					
アクティブラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	教諭、講師				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、集団学習における日本伝統歌唱法習得の手法や、評価について講義する。				
到達目標及びテーマ	これまで習得してきた西洋発声とは違った歌唱法に長唄を通して触れ、発音・発声・声色の違いに気付き表現につなげることができる。三味線の伴奏や、かけ声を手がかりに唄うことで、楽譜に書き表せない独特の間や緩急などを意識して唄うことができる。学校現場での実践を見据え、研究意識を持って取り組むことができる。				
授業の概要	長唄の中では比較的内容が分かりやすく、日本伝統芸能の素地とも言える言祝ぎや門付け芸について理解を深められる「外記猿」を教材とする。一部抜粋ながら一曲通して演奏することで、様々な表現方法や発声の体得を目指す。本来は師匠と弟子の1対1が固有の稽古方法であるが、個人の課題や気付きを毎回の課題シートでやりとりすることで全体指導と個人指導を行う。学習指導要領において和楽器のみならず「長唄などの日本伝統歌唱」と明記されており、その指導法について研究していく。				

授業計画	
第1回	様々な日本のうた「声明・謡・義太夫など」 / 長唄の基礎知識
第2回	学校教材 長唄「勸進帳」の実践方法
第3回	長唄「外記猿」P1.「まかり出でたる」～「なんなげ頭巾」
第4回	〃 P2.「夜さのとまりは」～「室がとまりぞ」
第5回	〃 P2.「とまりを急ぐ」～P3.「始めけり」
第6回	〃 P4.「やんらめでたや」～P5.「咲きや乱るる」
第7回	〃 P5.「旦那の前で」～「さっても粋なしなものめ」
第8回	前半の復習と邦楽発声について / 「外郎売」を用いた発語練習
第9回	長唄「外記猿」P8.「松の葉越しの」～「一をどり」
第10回	〃 P8.「臈月さみだれ」～P9.「植糸い早乙女」
第11回	〃 P12.「一の幣立て」～「響き申せば」
第12回	〃 P13.「地より泉が」～「めでたけれ」
第13回	まとめに向けて① わけ口決め、グループ練習
第14回	まとめに向けて② グループ練習、個人・グループレッスン
第15回	長唄「外記猿」を通して演奏会 統括

事前学修	0.5時間	長唄に限らず、三味線音楽や日本のうたものなど、広く興味を持って調べたり視聴したりすること。
事後学修	0.5時間	習った範囲は必ず復習し、一人で唄うことによって自分の癖や課題を見出すこと。
フィードバックの方法		<ul style="list-style-type: none"> 授業内におけるプリント課題は、個別にコメントし返却する。 プリントから吸い上げた個人の疑問や気付きを全体で共有し、演奏研究につなげる。 2、3人ずつ教師の前で唄う時間を設け、アドバイスをする。

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	40%	西洋発声との比較、独特な間や緩急など。邦楽指導の課題や展望について等、具体的に論じているか評価する。

上記以外の試験・平常点評価	60%	積極的に声を出し、プリントにどのように工夫、疑問、感想を持たせたか具体的に記述できているかを評価する。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
プリントを配布	なし	なし	なし	なし
参考資料	長唄稽古本 吉住小十郎編「外記猿」(邦楽社)			